

ウェルビーイングに向けた学校施設づくりのアイデア集 概要（案）

学校施設の質的改善・向上に関するワーキンググループにおける検討経緯

第1回（令和5年2月27日（火）15:00-17:00）

◆事例紹介

- ・ 教育環境研究所 野島直樹氏

第2回（令和5年4月27日（木）15:00-17:00）

◆次期教育振興基本計画について

- ・ 総合教育政策局政策課

◆効果検証について

- ・ 垣野義典委員
- ・ 林立也委員
- ・ 施設企画課

視察（令和5年6月13日（火））

東京学芸大学附属竹早小学校・竹早中学校

第3回（令和5年6月26日（月）14:00-16:00）

◆生活の場としての学校施設について

- ・ 岐阜県岐阜市立草潤中学校（不登校特例校）
- ・ 奈良県香芝市教育委員会（だれでもトイレ）

◆視察報告について

第4回（令和5年8月3日（木）10:00-12:00）

◆共創の場としての学校施設について

- ・ 小林生吉委員
- ・ 国立教育政策研究所文教施設研究センター
（対話を通じた新しい学校空間づくりのプロセス事例紹介）

視察（令和5年8月24日（木）・25日（金））

広島県府中市立栗生小学校

府中市立第一中学校

府中市立府中学園

福山市立常石ともに学園

福山市立想青学園

学校施設の質的改善・向上に関するワーキンググループにおける検討経緯

第5回（令和5年8月29日（火）10:00-12:00）

◆学びの場としての学校施設について

- ・ 高橋純委員
- ・ 赤松佳珠子委員

◆視察報告について

視察（令和5年10月6日（金））

千葉県 柏市立田中北小学校、柏市立土小学校

第6回（令和5年10月16日（月）15:30-17:30）

◆共創による学校づくり・地域に開かれた学校の事例

- ・ 山崎亮委員

◆アイディア集についての議論

- ・ 生活・共創について

◆視察報告について

視察（令和5年11月14日（火））

茨城県 つくば市立みどりの学園義務教育学校

第7回（令和5年12月21日（木）15:00-17:00）

◆アイディア集についての議論

- ・ 学びについて

◆視察報告について

第8回（令和6年3月11日（月）10:00-12:00）

◆アイディア集についての議論

- ・ 項目案及びサンプルページについて

視察（令和6年5月16日（木））

石川県七尾市立小丸山小学校

七尾市立山王小学校

第9回（令和6年5月30日（木）14:00-16:00）

◆アイディア集についての議論

今後のスケジュール

令和6年6月18日（火）14:00-16:00 第6回学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議

頂いた御意見を踏まえて修正

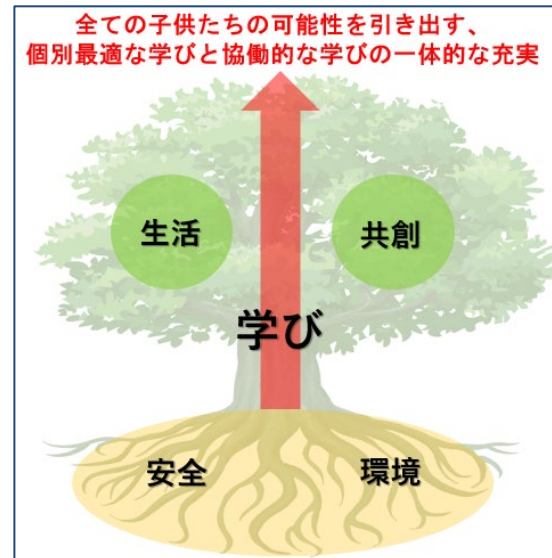
令和6年6月中 原稿完成

令和6年7月 版下作成、印刷・ホームページ掲載、配布

※これ以降に得られた知見については、適宜、ウェブサイト上での情報発信等を行う。

ウェルビーイングに向けた学校施設づくりのアイデア集（案） 概要

- 平成22年3月に文部科学省で作成したアイデア集の知見をアップデートするため、「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」（令和4年3月学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議）や教育振興基本計画（令和5年6月閣議決定）において示された考え方を踏まえ、新たな時代の学びを実現する学校施設のアイデアとその実現プロセスについて事例を収集。
- 「共創」「生活」「学び」「環境」「安全」の5つ新しい時代の学校の姿について、31都道府県の72校の事例（既存施設約30校の改修・活用改善事例を含む）を基に、88のアイデア、5つのコラムを掲載。併せて、学校施設づくりの現状・課題の把握、及び効果の把握・検証に向けた取組事例についても掲載。



資料：「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」（令和4年3月）

掲載アイデアの特徴

学校における学習環境づくりは、新校舎の整備に収まるものではなく、それ以前から始まり、施設完成後にも校舎を使い続ける中でも、完成を迎えることなく取り組まれるもの。施設整備の各ステージに、多様な主体（設置者・設計者・教職員・児童生徒・保護者・地域関係者・研究者・専門家）が参画することで、施設整備の更なる展開が生まれる。

ウェルビーイングの考え方を踏まえ、学校施設において児童生徒や教職員一人一人のウェルビーイングの向上を図る取組とともに、各要素のつながりや連続性を含め、学校という環境全体を、調和した生活・活動の場となるように整備するための取組を紹介。

学校施設の現状の課題を把握し、施設づくりの効果を客観的に把握する取組事例を紹介。

- [児童生徒の意識の把握] 児童生徒の「学校環境」に対する評価が、「行動・意識」に影響を与え、「パフォーマンス」が向上
- [環境の影響の客観的把握] 学校施設の環境整備により、児童の身体活動を促し、体力や運動能力の向上に寄与
- [大規模改修の効果] 学校における良好な室内環境は、児童の集中力に寄与

ウェルビーイングに向けた学校施設づくりのアイデア集（案） 概要

多様な主体の参画によって生まれる施設整備の展開

構想・計画

設計・施工

使いこなし

カスタマイズ

改修

建て替え

- 構想段階から**地域住民**や**教職員等**が設置者・設計者と共創、新校舎で行う学びをデザイン



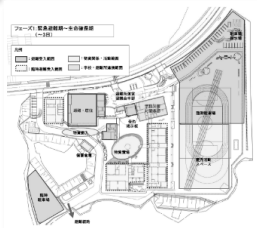
(福島県大熊町立学び舎ゆめの森)



(北海道中頓別町)



(秋田県五城目町立五城目小学校)



(和歌山県串本町立くしもと小学校)

- 新校舎の施工に**子どもたち**も職人と共に参加



(富山県魚津市立星の杜小学校)

- 使用中の校舎の活用方法について、**教職員**が**専門家**と共に空間環境を改善



(東京都板橋区立板橋第十小学校)

- 使用中の校舎についての問題意識を**教職員**自身が具体化し、自分たちで空間の改善につなげる



(東京都板橋区立板橋第十小学校)



(東京都八王子市立いずみの森義務教育学校)

- 日頃、校舎を利用している**児童生徒**や**地域住民**が、自分たちで既存の教室を改修



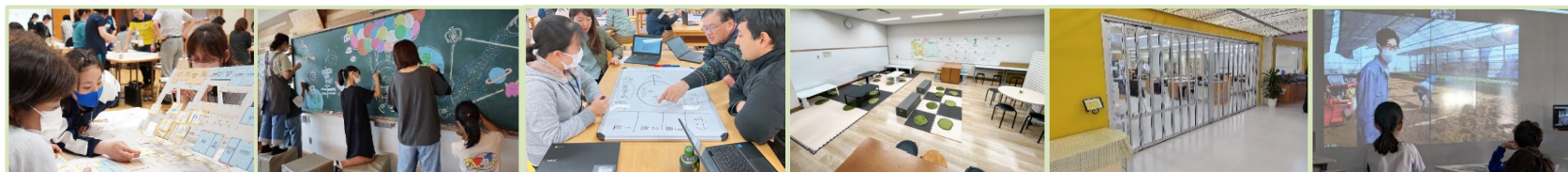
(東京学芸大学附属竹早中学校)



(広島県府中市立栗生小学校)

ウェルビーイングに向けた学校施設づくりのアイデア集（案） 概要

共創



写真：（左から）北海道中頓別町、広島県府中市立栗生小学校、東京都板橋区立板橋第十小学校（2枚）、北海道安平町立早来学園、東京学芸大学附属竹早小学校

01＜共創を通じて学校を構想する＞

地域住民との対話

- ・小規模な町の学校整備の構想に当たり、コミュニティデザインの専門家を迎え、顔見知りの町民が「どんな教育をしたいか」を協議。基本計画の検討段階から、子どもも大人も参加するワークショップで 開校後の活動の仕組みづくりを続けている。（北海道中頓別町）
- ・町で唯一の小学校の改築を前に、PTAの思いを教育委員会が引き継ぎ、学校づくりを考える対話を重ねた。新校舎等を拠点に、全町民対象の無料講座を開催している。（秋田県五城目町立五城目小学校）

02＜自分たちで、教室を変える＞

教室の改修プロセスに子どもたちが参加

- ・長年、交流が続く地元地域の住民や児童が設計・施工に関わり、学校と地域をつなぐ拠点（CSカフェ）を校内に整備。地域と学校のコミュニケーションが増えている。（広島県府中市立栗生小学校）

教職員との対話

- ・普通教室に隣接するオープンスペースの活用方法を、教師が、研究者と行うワークショップで検討。家具や掲示物で学習空間を改善。（千葉市立美浜打瀬小学校、東京都板橋区立板橋第十小学校）
- ・学校司書が校長や教職員等に呼びかけ、書架の配置を見直し図書館全体を「柔軟な学びの場」へとリニューアル。（東京都杉並区立井荻中学校）

03＜学校は、地域や社会との共創の場になる＞

コミュニティ・スクールの拠点になる場

- ・過去に増築を繰り返した校舎内のエリアを整理、地域交流棟に集約。（千葉県柏市立土小学校）

学校施設を地域住民が利用する

- ・ICTセキュリティで地域開放に伴う学校側の手間と不安を解消し、日中も特別教室を共用。（北海道安平町立早来学園）

ICTで世界とつながる

04＜児童生徒を様々な角度から支える＞

部活動の地域移行を施設面でサポート

- ・教育委員会の2課が連携し、地域指導者が休日に音楽室に入れる仕様へセキュリティ回路を変更。（兵庫県加古川市立別府中学校）

専門スタッフの席が職員室にある

05＜地域とのつながりを感じる校舎＞

木造校舎を活かした「木育カリキュラム」

- ・小学校を統合し、地元産材を使用した木造校舎を新設。学校空間づくりの経緯の継承を望む設計者の思いから、新校舎では、4年生から6年生の授業で地域の職人から校舎のメンテナンスを学ぶ活動が行われている。（富山県魚津市立星の杜小学校）

ウェルビーイングに向けた学校施設づくりのアイデア集（案） 概要

生活



写真：（左から）福島県大熊町立学び舎ゆめの森、千葉市立美浜打瀬小学校、広島県府中市立第一中学校、北海道安平町立早来学園、京都市立開建高等学校

01＜心持ちにフィットする、学び心地・居心地の良い場所＞

過ごしたい場所を選べる

- ・校舎の固定概念を問い直し、遊びながら学べる空間を構想。大きさも形もバラバラな教室がつながる校舎で、子どもたち自身が学習場所を見つけていく。（福島県大熊町立学び舎ゆめの森）
- ・校内に多様な居場所の選択肢を設け、生徒が自分で居場所を知らせる「イマここボード」を活用。（岐阜市立草潤中学校）

ひとりにもなれる場所

- ・児童が落ち着いて過ごせるスペースづくりを研究者に相談。オープンスペースに小空間を設置。（千葉市立美浜打瀬小学校）

クラスへ入りづらい子も安心できる場

- ・学校らしく見えない教室を整備。（広島県府中市立第一中学校）

02＜ユニバーサルな環境整備＞

誰もが利用しやすいトイレ

- ・性別を限定しないトイレや、様々なスタイルのトイレを配置。（奈良県香芝市立香芝東中学校、千葉県柏市立田中北小学校）

明快な動線計画

- ・見通しのよい位置が特別支援教室。（千葉県柏市立田中北小学校）

03＜普通教室＋αのクラスの拠点＞

普通教室近くのクラスの拠点となる空間

- ・学習空間・教室とは別に、児童生徒のロッカー・休憩スペースを確保。（北海道安平町立早来学園、京都市立開建高等学校 等）

04＜過ごしやすい室内環境＞

自然の力も取り入れた明るい空間

（岐阜県瑞浪市立瑞浪北中学校 等）

05＜教職員・多様な専門職が心地よく働ける環境＞

目的に応じて場所を選べる職員室

- ・席を固定せず、集中作業をする場所や立ったまま打ち合わせができる場所を設け、自律的に場所を選択。（広島県福山市立想青学園）
- ・研究者と教職員が、滞在率等の利用状況を踏まえ、空間を有効活用するためにレイアウトを変更。（東京都板橋区立板橋第十小学校）

教職員のくつろぎ空間

- ・校内の一室を産休・育休明けの教職員が搾乳等のために安心して利用できる部屋に改装。（東京都八王子市立いずみの森義務教育学校）



写真：（左から）広島県福山市立想青学園（2校）、東京都八王子市立いずみの森義務教育学校

ウェルビーイングに向けた学校施設づくりのアイデア集（案） 概要

学び



写真：（左から）富山県富山市立芝園小学校、千葉県柏市立土小学校、京都市立開建高等学校、福島県大熊町立学び舎ゆめの森、岐阜県瑞浪市立瑞浪北中学校

01＜子どもたちが活動空間を広げていく普通教室＞

ICTで複線型の授業を実現

- ・15年経過した校舎で、ICTを活用し、個別学習や協働的な学習が非同期的に分散して現れる複線型の授業が展開。児童は教室からオープンスペースへ活動空間を広げていく。（富山県富山市立芝園小学校）

扉や壁を取り払う

- ・改修時に教室間の壁にガラス扉を設け、学年担任制の下で学級間の連携が取りやすくなっている。（千葉県柏市立土小学校）

教室の「正面」はひとつではない

- ・教室の前面・背面と、廊下側の可動式の壁面もホワイトボードに。（千葉県柏市立土小学校）

家具で空間をつくる

- ・オープンスペースの柱・壁と家具の位置関係で、授業スタイルや児童の行動範囲が変化。（北海道東川町立東川小学校）

02＜学び方をアップデートできる特別教室＞

壁一面に複数の画面を映す、書く

ICTを活用したものづくり

- ・課題解決型学習のアウトプットツールとして、児童生徒が自由に使える動画編集ができるハイスペックPCや3Dプリンターを置く「ラボ」を開設。（埼玉県戸田市立戸田東小学校・戸田東中学校）

03＜様々な対話や発表の形に対応した空間＞

主体的な対話のための工夫

- ・教室内にサークル対話のためのベンチを配置。（広島県福山市立常石ともに学園）
- ・普通教室4つ分の大空間の教室が、小グループでの協働や全体向けの発表など、目的に応じて形を変える。（京都市立開建高等学校）

04＜あらゆる場所で、学びのきっかけに触れる＞

学びの刺激を与える展示

（ドルトン東京学園中等部・高等部 等）

05＜知に出会い、探究する＞

柔軟な学びの場と居心地よい読書空間の両立

- ・学校の中心に据えた図書館（本のひろば）を囲むように学習空間を配置したり、生徒の日常動線に「ラーニングコモンズ」を配置。（福島県大熊町立学び舎ゆめの森、岐阜県瑞浪市立瑞浪北中学校 等）
- ・図書室の書架配置を見直し、授業もできる広々した閲覧スペースを確保。（東京都杉並区立井荻中学校）
- ・一人ずつ仕切られたスペースやコミュニケーションをとる閲覧シート等の座席を選んで利用。協働的な学びにも利用するラウンジを併設。（ドルトン東京学園中等部・高等部）
- ・図書館の外のデッキを読書テラスに。（千葉県柏市立土小学校）

ウェルビーイングに向けた学校施設づくりのアイデア集（案） 概要

環境

01＜校舎の環境性能を教育に関連付けて活用＞

ZEBの校舎、木材活用の校舎が教材に

- ・設計者と教職員が新校舎での環境教育を検討、将来の生徒へ引き継ぐ校舎の「取扱説明書」を作成。（岐阜県瑞浪市立瑞浪北中学校）
- ・校内に木の文化を学ぶ仕掛けを施し、校舎に使われた木材の生産地についても学ぶ。（東京都江東区立有明西学園）

自然共生

- ・土木と建築が共に構想・設計した郷土種の植栽、ビオトープ、自然素材の活用等



写真：（左から）岐阜県瑞浪市立瑞浪北中学校、東京都江東区立有明西学園、岩手県釜石市立唐丹小学校・唐丹中学校、宮城県東松島市立宮野森小学校

02＜再生可能エネルギー活用＞

自然の力を活用

- ・太陽電池、太陽集熱器、風力発電、バイオマス熱利用、雨水利用

03＜良好な室内環境＞

熱環境 音環境 光環境

- ・外壁等の断熱化、自然通風、吸音、日除け、ハイサイドライト

安全

01＜災害に対する安全性を確保する＞

災害発生直後、円滑に学校施設に避難所を開設する

- ・学校の早期再開を見据えた避難者の誘導、地域住民の避難経路を確保した配置計画、鍵ボックスの設置

02＜避難所として必要な機能を備える＞

生命確保期・生活確保期に特に重要な機能を備える

- ・断水時に使用可能なトイレ、電力の確保、管理・荷捌きスペース

地域との連携

- ・小中学校の全ての避難所配置図を作成、公表。（群馬県前橋市）



写真：（左から）和歌山県串本町立くしもと小学校（予定）、三重県伊勢市立桜浜小学校、東京都江戸川区立小松川第二中学校、福岡県大牟田市立みなと小学校

03＜防犯＞

開放する際の安全への配慮

<コラム>令和6年能登半島地震への対応

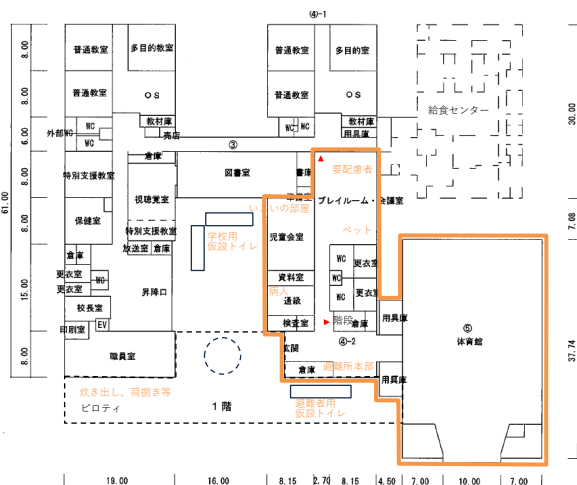
石川県七尾市立小丸山小学校、山王小学校 |七尾市では、学校を避難所として使用した。また、早期の学校再開に向け、学校内での避難所として使用する場所、学校教育として使用する場所を分けた。

七尾市は、石川県の北部、能登半島の中央部東側に位置している。

2024年（令和6年）1月1日に発生した令和6年能登半島地震においては、最大震度6強を観測し、大津波警報も発表された。市内全域で断水があり、復旧までは3か月を要した。停電は無かった。

七尾市では、災害時の避難場所として公共施設や学校が災害種別毎に指定されており、地域住民はまず身近な公共施設（学校も含む）に避難することとしている。小学校10校、中学校4校があり、土砂災害警戒区域の1校を除き、避難所に指定されている。学校ごとの防災計画を策定し、発災時の対応についてまとめている。今回の地震においては、ほぼ全小中学校が被災し、計8校の七尾市立小中学校が避難所として開設された。福祉避難所は民間の施設を指定し、学校は対象としていないが、すぐに開設できたわけではないため、要配慮者（高齢者、障がい者）についても、学校へ避難した。

避難所となった小丸山小学校（平成25年改築）および山王小学校（平成24年改築）については、防災機能整備として段差の解消やバリアフリートイレの整備、エレベーターの設置がされていた。その一方で、体育館にはエアコンが整備されていなかったため、避難初期には、地域住民はエアコンの設置された普通教室等への避難を行っていた。学校の再開に向けては、「災害時学校支援チームおかやま」等による運営面へのサポートもあり、1月下旬に、避難者を体育館へ移動させて教育活動部分と区分けし、小丸山小学校は1月25日に、山王小学校は1月30日に学校を再開した。



学校再開後のゾーニング（小丸山小学校）

- ・元々、地域開放を念頭に置いたシンプルな平面プランであったため、プレイルームと廊下の間の扉、2階へ上がる階段の扉を閉じることによって、避難所として使用する場所を区分することができた。
- ・柱の間などのちょっとしたくぼみのスペースが、物品置き場や、人々の居場所になった。

避難所としての様子（㊦：参考となるアイディア）

屋上

大津波警報が発表されたため、地域住民は、山王小学校の屋上への避難を試みた。しかし、学校の鍵が開いていなかったため、ガラスを割っての侵入があった。そのため、災害時の避難経路を決めておくことは大切である。

㊦安全-01-01_災害発生直後、円滑に学校施設に避難所を開設する 鍵ボックス・電気錠の設置

ゾーニングについて

避難初期は、危険性のある箇所以外のエアコンのある普通教室、特別教室、図書室、オープンスペース等に数世帯ずつ滞在し、体育館には避難者はおらず、物置き場になった。小丸山小学校では、体育館の近くのプレイルームや通級教室を活用して、要配慮者（高齢者、障がい者、体調不良者）やベットのためのスペースに割り当てた。避難所から中学校や高校に通う生徒もいたため、更衣室は役立った。

避難所の本部機能は、小丸山小学校においては体育館の入り口付近、山王小学校においては職員室に設置した。

避難者の駐車場であったり、ゴミを置いておくスペースの確保に苦慮した。

トイレ

市水道の断水や下水管の一部破損に伴い、通常通りトイレを使用することはできなかった。ただし、トイレは洋式化していたため、凝固剤を用いた簡易トイレの設置をすることができた。また、バリアフリートイレも整備していたため、高齢者の使用も可能であった。仮設トイレについては、学校用と避難者用を設置したが、和式であるため、不便が生じた。

㊦安全-02-01_生命確保期及び生活確保期に特に重要な機能を備える 断水時でも使用可能なトイレ

体育館内のプライバシー確保策

避難初期は物置き場等として使用していたが、1月下旬に体育館が避難者の居室となった。小丸山小学校においては支援物資のテントを、山王小学校においては段ボール製のインスタントハウスを設置し、各世帯ごとのプライバシーを確保した。エアコンが設置されていなかったため、寄付してもらった暖房器具等を使用した。

家庭室、ランチルーム

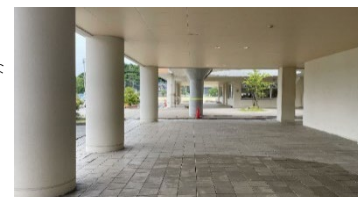
市水道の断水のため、校内の給食センターは使用することができなかった。プロパンガスが使用できたため、簡易的な食事の提供については、家庭室を使用した。

ピロティ

ボランティアによる炊き出しについては、ピロティ部分などを活用してもらった。荷捌きの場所としても活用した。

㊦安全-02-01_生命確保期及び生活確保期に特に重要な機能を備える

避難所の管理スペース、荷捌きスペース



ピロティ（小丸山小学校）